

京都府営水道事業の経営状況等について

令和4年11月 京都府府民環境部

1

令和3年度決算の状況

〔収益的収支〕

項目	(税抜き)				
	令和2年度 決算(A)	令和3年度 計画(B)	令和3年度 決算(C)	R2決算との差 (C)-(A)	R3計画との差 (C)-(B)
年間給水量	千m ³ 41,163	千m ³ 37,960	千m ³ 43,256	千m ³ 2,093	千m ³ 5,296
① 収益的収入	百万円 5,011	百万円 5,092	百万円 5,284	百万円 273	百万円 192
給水収益	4,601	4,740	4,892	291	152
他会計補助金	15	6	5	△ 10	△ 1
その他	395	346	387	△ 8	41
② 収益的支出	13,523	5,011	4,622	△ 8,901	△ 389
人件費	446	530	460	14	△ 70
維持管理費	985	1,077	1,113	128	36
ダム管理費	288	320	301	13	△ 19
減価償却費	2,435	2,646	2,416	△ 19	△ 230
支払利息	365	438	332	△ 33	△ 106
特別損失	9,004	0	0	△ 9,004	0
③ 収益的収支差引 ①-②	△ 8,512	81	662	9,174	581

・年間給水量:対前年度決算比5.1%増の4,325万6千立方メートル。計画からは14%増。
市町施設更新工事に伴う府営水道受水量の増加等による。

・収益的収入:対前年度比5.4%増の52億84百万円。計画からは3.8%増。
料金改定経過措置期間の段階的な単価増及び給水量の増に伴う給水収益の増加による。

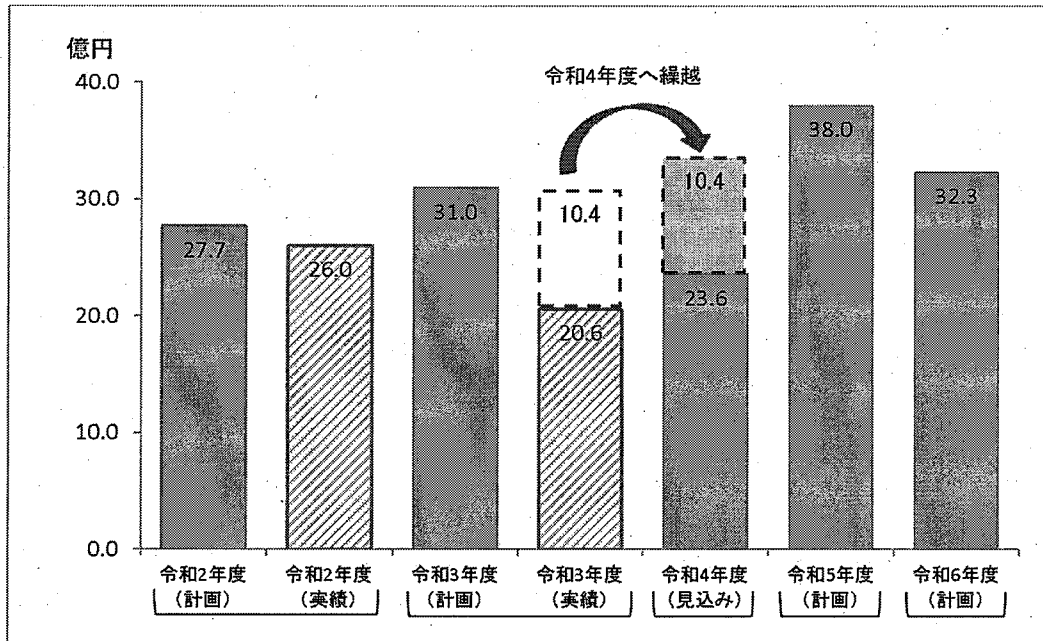
・収益的支出:対前年度比65.8%減の46億22百万円。計画からは7.8%減。
減価償却費や支払利息等の減少による。
前年度の特別損失は未利用水源費の減損処理によるもの。

・収益的収支差引:6億62百万円の黒字。

(注)・「その他」:長期前受金戻入、水質検査受託費等の合計額
・「維持管理費」:修繕費、薬品費、動力費、委託費等の合計額
・計画:「経営レポート R2.11改訂版」の見込み値

2

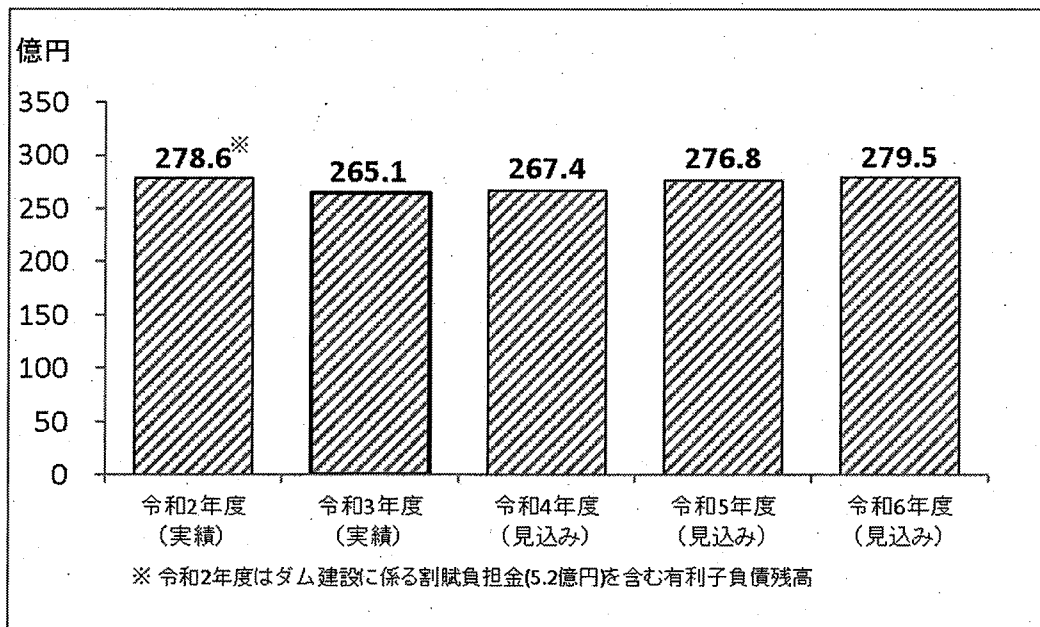
今後の経営見通し(改良事業費)



- 宇治浄水場オゾン発生装置更新工事(R1-R3)、中間ポンプ更新工事(R2-R3)完了、木津浄水場沈殿池掻寄機更新工事(R2-R3)完了及び導水ポンプ設備更新工事(R3-R4)着手、乙訓浄水場自家発電機設備設置工事(R1-R3)完了等、計画どおりに工事を実施。
- 関係機関との調整を要する管路更新事業など、一部事業を4年度に繰り越して実施中。
- 国庫補助金の活用等により経費削減に努めている。

3

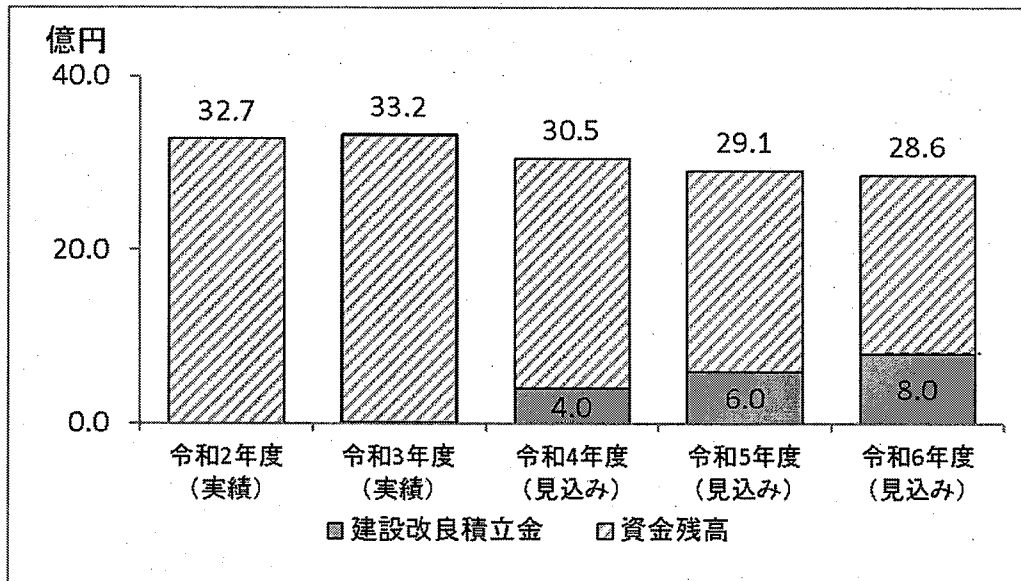
今後の経営見通し(企業債残高)



- 一部工事を4年度に繰越したことによる借入額減少のため、残高が減少。
- 継続的に改良事業を実施していくため起債額は依然として高い状況。資金残高確保とのバランスを考慮した新規借入により、企業債残高の抑制を図る。

4

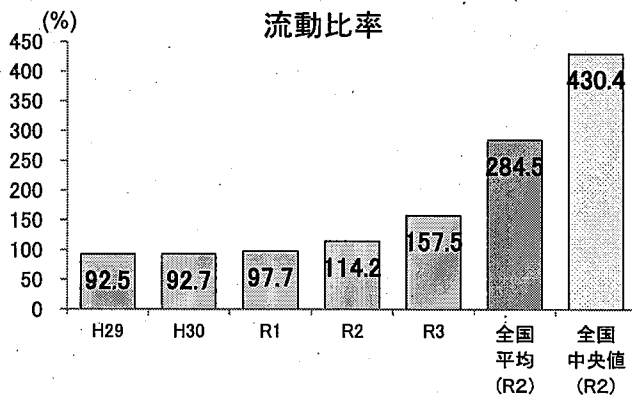
今後の経営見通し(資金残高)



- 3年度末資金残高は2年度末より0.5億円増加。
- 現行料金期間の後半は改良事業費が多く、一方で新規企業債の発行を抑制しながら事業を進めることから、資金は減少傾向。
- 給水収益の黒字分のうち、資産維持費相当分については、翌年度に2億円/年を建設改良積立金として積み立てて、施設改良費用として活用。(3年度の黒字分については2年度の積立分も含めて翌年度に積立)

5

全国平均値(R2)と府営水道の現状(R3)比較

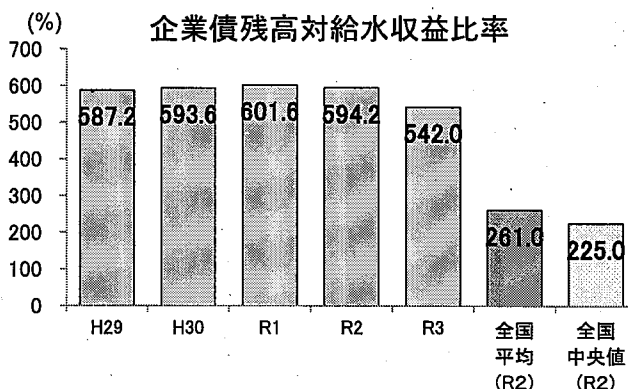


○流動比率

短期的な債務に対する支払能力を示します。1年以内に支払うべき債務に対して支払うことができる現金等がある状況を示す100%以上であることが必要です。

- ✓ 全国平均よりも低い状況で、債務残高が多く、資金が少ないことを示しています。

[流動資産/流動負債×100 (%)]



○企業債残高対給水収益比率

給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標です。

- ✓ 全国平均よりも高い状況です。令和3年度は事業費の減少及び起債率の抑制により起債額が減少したため、比率は改善しました。

[企業債残高/給水収益×100 (%)]

6